

地球惑星科学委員会地球惑星科学社会貢献分科会  
(第26期・第6回)

議 事 要 旨

1. 日 時 令和7年8月15日(金) 10:00~11:55

2. 会 場 オンライン会議 (ZOOM)

3. 出席者

佐竹健治、森口祐一、藪田ひかる、稲葉俊哉、江守正多、大久保泰邦、片岡香子、唐沢かおり、川口慎介、川幡穂高、佐藤薫、標葉隆馬、鈴木康弘、関村直人、谷本浩志、中村尚、新野宏、藤井良一、益田晴恵、谷田貝亜紀代、山岡耕春、山口紀子、渡邊誠一郎

4. 議 事

- (1) 佐竹委員長から資料2に沿って第三部夏季部会の報告(日本学術会議の法人化へ向けての検討・準備状況)があった。次期の会員・連携会員の選考は、通常よりも遅れる見込みである。また、今年度予算で「審議活動の充実強化」の予算が手当てされ、会員・委員手当の回数制限はなくなった。
- (2) 山岡委員から、前期(第25期)に公表した見解『より強靱な原子力災害対策に向けたアカデミアからの提案—放射性物質拡散予測の積極的な利活用を推進すべき時期に来たと考えます』に関して、研究者(気象学会会員)と原子力規制庁との意見交換会が開催された(オンラインで2回、対面で1回)ことが報告された。
- (3) 江守委員から資料3に沿って「気候変動問題と不確実性」という題で話題提供があった。最近の気温上昇の原因については不確実性はほとんどないことがIPCCなどで公表されているが、日本では若い人ほどそれが認知されていないこと、気候変動リスクのコミュニケーションでは「価値観依存性」や「政治性」の影響が大きいこと、などが述べられたあと、質疑や議論を行った。米国のトランプ政権下での状況、AIの利用、学校教育や次世代への伝え方などが議論された。
- (4) 唐沢委員から資料4に沿って、「不確実な科学的知見の理解」という題で話題提供があった。社会心理学的にみた不確実さと曖昧性回避、対処可能性の関係、不安・恐怖・ネガティブムードの影響・主観的なリスク認知のバイアスなどについて解説された後、地球惑星科学の特徴や科学的な知見の伝え方について議論された。

5. 配布資料

資料1: 地球惑星科学委員会地球惑星科学社会貢献分科会(第26期第5回まで)

資料2: 第三部会夏季部会の資料(抜粋)

資料3: 江守委員資料

資料4: 唐沢委員資料